

# 県内の情報連絡員報告

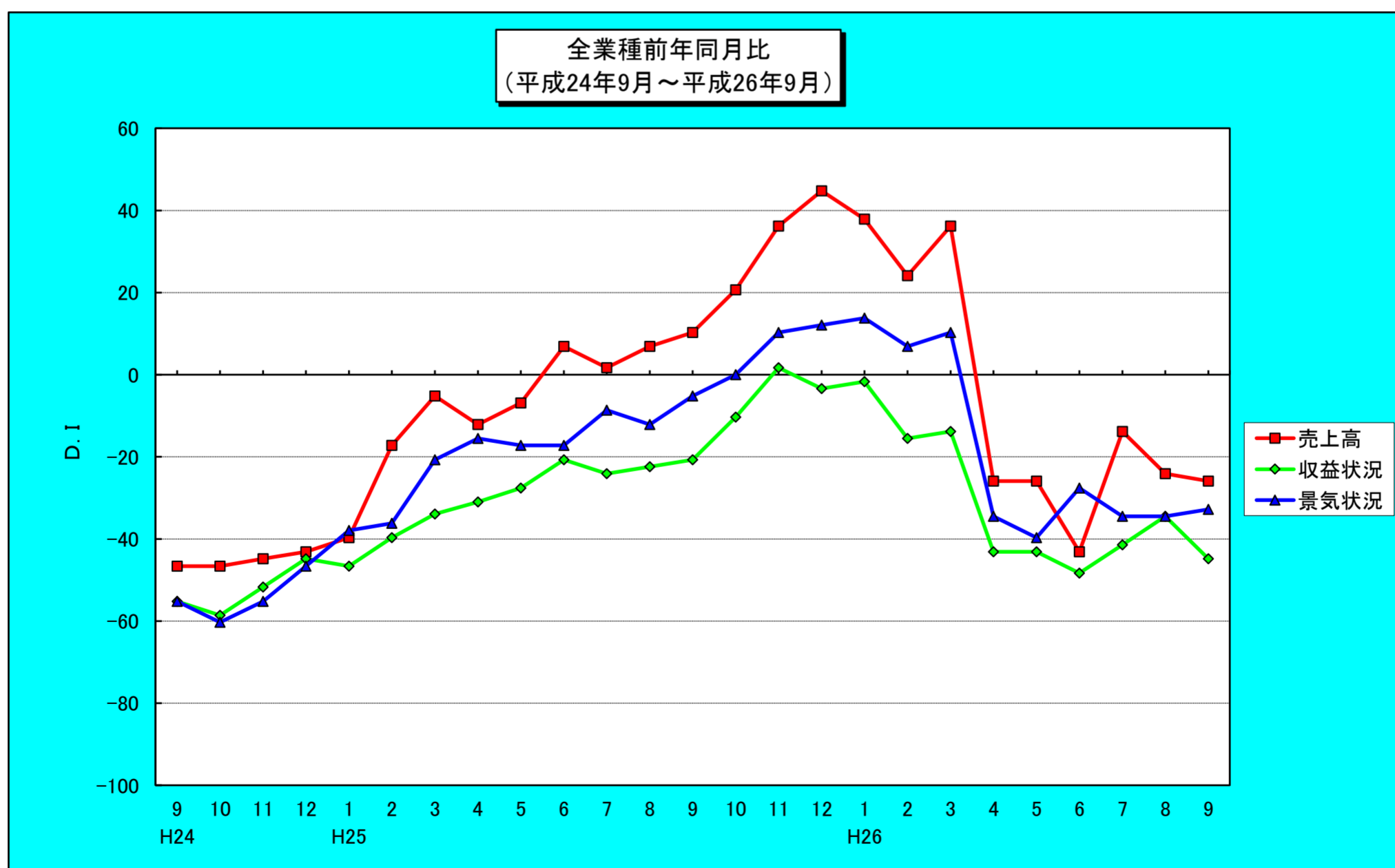
石川県中小企業団体中央会

## ■平成26年9月分

平成26年9月期において

- D I 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、4項目が上昇、5項目が悪化であった。4項目が上昇しているものの、その上昇幅はわずかで、主要3項目（売上高、収益状況、業界の景況）のうち、売上高と収益状況は悪化していることから、県内中小企業の景気動向は引き続き停滞していると言える。外需と個人消費の低迷、コスト高が多くの業界で聞かれ、景気回復の大きな足枷となっていると考えられる。
- 製造業においては、5項目が上昇、1項目が横這い、3項目が悪化であった。上昇項目は増えているものの、その幅はわずかであることから、引き続き停滞していると言える。その要因は、輸入品に押される繊維工業、公共工事・民間工事共に少ない窯業・土石製品製造業、個人消費の停滞が続く伝統産業（漆器、陶磁器、織物）、外需が低調な鉄鋼・金属製品製造業と一般機械器具製造業、と幅広い業界で外部環境の悪化が見られるためと考えられる。なお、低調な製造業の中では、排ガス規制対応の建設機械、産業機械、工作機械関連の鉄鋼・金属製品製造業が好調であり、今のところ、外需よりも内需の方が旺盛とのことであった。
- 非製造業は、5項目が悪化、1項目が横這い、2項目が上昇であり、売上高と収益状況については二桁の悪化となっていることから、悪化傾向が一層進んでいると言える。悪化していたのは、小売業と商店街であり、駆け込み需要の反動減の影響が根強い、消費増税と物価高による節約志向から個人消費が盛り上がらない、との声が聞かれた。この停滞した個人消費を好転させる要因が見当たらないことから、事態は相当深刻であると考えられ、今後に注視したい。なお、9月の行楽シーズンであったので、土産物小売業、旅館・ホテル業は比較的好調であった。
- 急激な円安については、全業種では「悪い影響」が58.3%と最も多く、「影響はない」が33.3%と続いた。「良い影響」は8.3%と少数に留まったことから、急激な円安は県内の中小企業者にとっては、事業を好転させる要因にはならないことが分かった。製造業においては、全業種と比べて、「悪い影響」が68.0%と多く、「良い影響」は4.0%と極少数であった。また、「影響はない」との回答は全業種よりも少なく、円安の影響がよりはっきりと現れているようである。「悪い影響」の要因としては「輸入コスト上昇による原材料・仕入価格の上昇」が最も多く、食料品、鉄鋼、一般機器、印刷、窯業・土石製品、印刷、繊維工業と幅広い業界で見られた。調達に海外に依存するものが多いため、このような結果になったと考えられる。また、「原材料や燃料費の高騰を価格に転嫁できない」も多く、中小企業ならではの取引の困難さを表している。非製造業においては、「悪い影響」が最も大きかったものの、全業種と比べてその割合は少なく、「影響はない」と「良い影響」の割合が多いことが特徴的であった。要因から推測すると、海外との関連が比較的薄いためにこのような結果になったと考えられる。「悪い影響」の要因は、製造業と同様「輸入コスト上昇による原材料・仕入価格の上昇」が最も多く、事務機事務用品卸売業、燃油・衣料品小売業、運輸業、建設業、旅館・ホテル業と幅広い業界で見られた。加えて、「原材料や燃料費の高騰を価格に転嫁できない」も多く、各種商品卸売業、衣料品・鮮魚小売業、商店街、運輸業、建設業で見られた。なお、「良い影響」は旅館・ホテル業で見られ、その要因は「外国人観光客の消費増加」と「国内旅行の増加」であるなど、観光にとってはプラスになっているようである。

### ◇全業種の前年同月比推移（H24.9～H26.9）



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

|             | 集計上の分類業種 | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当)   | 組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)   |
|-------------|----------|-------------------------|---|
| 製<br>造<br>業 | 食料品      | 調味材料製造業                 | 売上高は前年同月比3%上がり、前月比で26%の上昇となった。天候不順や高温の影響が落ち着いてきたと思われる。更に円安のため原料も5%上昇した。安売りの広告も減少してきて、個人消費は厳しいと実感している。   |
|             |          | パン・菓子製造業                | 売上高、収益状況ともやや減少気味である。燃料費の高騰により、収益が圧迫されている。商品単価が低いので、価格に転嫁がしにくく、厳しい状況である。個人消費について、観光客については平年並みのようであるが、今年は物価上昇による消費者の買い控えが不安である。   |
|             | 繊維工業     | 織物業<br>(加賀方面)           | 景気の回復は期待したほど力強さはなく、増えた仕事も減少懸念が出てきている。材料費・燃料費の値上がりに対して、少しは転嫁できたが、絹織物の一部商品では原材料費、消費税アップの影響により受注が激減し、採算性は更に悪化している。商品種や取引先により、組合員企業間でも大きな差が出てきている。<br>対前年同月比売上は増加しているが、収益状況は相変わらず厳しい。   |
|             |          | その他の織物業<br>(染色加工)       | 売上高に関しては、ここ数か月の推移と大きな変化はなく、マイナス傾向が続いている。収益状況も悪化している。原材料である生地の値上がりも厳しさに拍車をかけている状態である。消費者動向は、高額商品が売れることもあるが、総じてボリュームゾーンの販売が苦戦していることから、一般消費者は贅沢品の購入は控えているように思われる。組合員の業況に関しては、低下傾向に歯止めがかかっていない。販売の中心となるべき価格帯の商品が苦戦していることが大きいと考えられる。   |
|             |          | ねん糸等製造業                 | 以前、業種によって格差があり、全体的に売上高・収益状況とも悪化している。要因として、内需不振、円安による原材料コストの上昇及び繊維産業の海外生産が挙げられる。個人消費は若干減少傾向にある。また、海外からの輸入製品が国内に流入していることにより、内地の製造量が減少している。燃糸業界は委託加工(賃加工)がほとんどである。そのため、価格決定権に乏しく、収益改善が見込みにくい。また、販売に関しても決定権がなく、メリットが与えられにくい。更に受けた仕事もいつまで続くかわからず、大きく改善する見込みはない。設備投資をしたくても、見合いの加工賃が得られない。 |
|             |          | その他の織物業<br>(織マークの生産・加工) | 9月度は、昨年9月度に比べ、マイナス21%の売上減少となった。10月からの値上げの秋を迎えて、今後の消費動向には更なる不安を抱かざるを得ない。売上減少傾向には歯止めがかからず、業界の状況は極めて深刻度を増している。   |
|             | 木材・木製品   | 製材業、木製品製造業<br>(加賀方面)    | 9月は売上が昨年より大幅に低下している。一般住宅の受注が少なくなり、これからの見通しがつかない状況である。物価上昇が大きく、個人消費は落ち込んできている。   |
|             |          | 製材業、木製品製造業<br>(能登方面)    | 取扱量は3,235㎡と昨年より517㎡多く、売上高は48,791,380円と昨年より711,276円減少し、平均単価は15,082円と昨年より5,483円低下した。昨年は駆け込み需要と原木不足で高騰したが、今年は反動で市況が冷え込み苦しい状況が続いている。工務店・製材等受注がほとんどなく、良質材も値を下げている。   |
|             |          | 製材業、木製品製造業<br>(金沢方面)    | 9月に入り、急激な落ち込みが発生、過去に例のない状態と言えよう。近隣の情報も相当悪いようで、価格競争が激化してきそうな気配を感じる。この先は、新たな分野も模索して、内容の充実を図りたいと考えている。   |
|             | 印刷       | 印刷業                     | 消費税増税後の落ち込みの戻りは全体的に鈍い。また原材料の高騰も厳しい。個人消費について、今年は特に各地の天候不順・災害など、いろいろな所に悪影響を及ぼしているためか、良くして前年並み、殆どは昨年を下回る業績ではないだろうか。  |
|             | 窯業・土石製品  | 砕石製造業                   | 9月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は17.1%減、合材用アスファルト向け出荷は8.9%増となり、全出荷量では14.5%の減少となった。また、4-9月の上半期では、生コン向け及び合材用アルファルト向け出荷とも減少し、全出荷量で20.8%の減となった。   |
|             |          | 陶磁器・同関連<br>製品製造業        | 前年と比べると、大幅な売上減になっている。しかしながら、マイナス幅は漸く下げ止まったようにも思える。比較的良好な天候に恵まれ、観光客をはじめ県内を訪れる人が多くあったのではと考える。ただ、円安が進み、原材料高を招いている。販売価格は据え置きとなり、収益性の悪化は続いている。個人消費について、上記の通り、天候にも恵まれ、観光客も多く訪れている。それでいて売上は上がらないという結果が出ている。消費動向の向上はなく、極めて厳しい状態が続いていると考える。  |
|             |          | 生コンクリート製造業              | 県内の生コンクリートの出荷状況は、26年9月末現在、前年同月比85.8%の出荷となった。地区状況は、羽咋・鹿島地区がプラス出荷で、鶴来・白峰、金沢、七尾、能登地区がマイナス出荷となった。官公需、民需の前年同月比は、官公需87.3%、民需89.0%の状況である。公共事業の増加は、羽咋・鹿島地区で見られ、その要因は学校整備と砂防工事等であった。民間事業の増加は、南加賀、羽咋・鹿島、能登地区で見られ、その要因は工場と住宅整備等であった。   |
|             |          | 粘土かわら製造業                | 出荷量は、9月も消費増税の反動が続き、7-9月の四半期も厳しい業況であった。燃料・電力料金は若干低下傾向が出始めているが、高値安定は当分続きそうであり、収益環境はなかなか油断ができない状況が続いている。   |
|             | 鉄鋼・金属    | 一般機械器具製造業               | 為替レートは短期間での急激な変動は困る。受注が回復してきているが、今後の景気の動向が懸念される。資材の仕入価格はこれからが不安定である。  |
|             |          | 非鉄金属・同合金圧延業             | 先月同様、文化財保存会関係からの注文があり、横這い状況である。工芸品については、台風などの天候不順の影響もあり、大きな落ち込みとなった。  |
|             |          | 鉄素形材製造業<br>(銑鉄鑄物の製造)    | 9月度の操業度は対前月120.7%、対前年同月比は111.5%と増加している。産業機械、工作機械、インフラ関係は比較的好調を維持している。他分野は横這い状態であるが、織機関係は低迷している。操業度は、対前年同月比増えているが、電力料金、原材料価格高騰に対する鑄物製品への価格転嫁が進まず厳しい状況である。  |
|             |          | 鉄素形材製造業                 | 業種によって多少の差はあるものの、売上高や収益状況に大きな変化はない。忙しい業種では人材の確保に苦しんでいる事業所もある。12月以降の受注に不安がある。  |
|             | 一般機器     | 機械、機械器具の製造<br>又は加工修理    | 売上及び収益は、現在のところ、大きな変動は見られない。為替レートの変動の影響もまだ受けるに至っていない。為替レートとしては、1ドル=105円くらいが適正で、それ以上に円安が進んだ状態が続くと、様々なコストアップに繋がり、業績にも影響を受けざるを得なくなると思われる。業界全体として、業種によっては月次の売上高に多少の変動はあるが、これも例年のことであり、特に何か問題が生じての変動ではない。アベノミクスによる業況の大幅な改善もみられないが、大幅な落ち込みも見られず、概ね安定して推移している。                              |
|             |          | 機械金属、機械器具の製造            | 大きな変動は見られない。  |

|             | 集計上の分類業種         | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当)  | 組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)  |  |
|-------------|------------------|--|--|--|
| 製<br>造<br>業 | 一般機器             | 繊維機械製造業  | 組合員向けの繊維機械向け部品加工は、前年平均比マイナス23.5%、前月比プラス40.3%、平成19年平均比マイナス21.9%となった。メイン市場である中国とインドにおいて、共に金融引き締めによる影響が需要悪化の原因に直結しているようだ。中国は、需要に対して極めてアンバランスな過剰投資が、インドでは貿易赤字の増大による輸入制限が引き金となり、設備投資に対する融資が困窮を極めているのが現状である。共に生産国から消費国への色合いが変遷していく中でも、内需はそれほど悪くなく、繊維製品の輸出も増加基調にありながら、投資動向が進展してこない。現状での生産は、ついこの間の超多忙から一転し、ピークの半分以下の状態が続いている。協力先企業の操業度も急転直下で低下している。現状では、今後の市場見通しについては何とも言えず、需要国の回復を待つ以外にない状況となっている。<br>一方、工作機械関連向け部品加工は、前年平均比プラス12.3%、前月比マイナス6.9%、平成19年平均比マイナス18.2%となり、工作機械受注の好調さにリンクしてきた。国内では、ものづくり補助金効果が1割程度増で見込まれているが、ユーザでは「補助金慣れ」している部分があり、今以上の増加インパクトはないようにも思えるし、終了後の反動もそれほど懸念してないとの業界関係者の意見が多い。外需は円安効果で安定していることがあり、欧米の大手基幹産業が中心であるが、順調に設備投資に動いている。先般のシカゴショーでの受注促進もあったことから、当面の欧米での受注は好調に推移しそうである。内需は、このところの円安の行き過ぎが、電気料金・原材料の高騰などで、中小企業の設備投資進捗に水を差す心配が出始めた。今秋開催の日本国際工作機械見本市では最先端のマシンが多く出品されることから、過剰円安の悪影響を払拭できる結果が期待されている。現状では、自動車・航空機産業共に好調な状態であり、操業も多少の上下変動はあるものの、比較的安定した状態を堅持している。協力先企業も納期やコスト面で厳しさはあるものの、高水準の操業を維持できているようだ。 |  |
|             |                  | 機械器具及び其の他金属製品の製造   | 工作機械は前月比は105.9%、前年同月比は134.8%となっており、内需の前月比は117.5%、前年同月比は116.6%であった。外需の前月比は100.2%、前年同月比は148.0%となっている。前月比に関しては、7・8月と内需・外需ともに約100付近で推移していたのが、内需に関しては上昇傾向を見せている。外需に関しては以前横這いの傾向となっている。為替を見ると、今年に入ってから円・ドルの為替が100円台を保持しており、9月で更に100円後半まで推移している。現地生産、現地販売の傾向にある昨今、外需に対する販売に良い影響になるのかどうか分からない。また、輸入に関して、原材料の高騰となるためその影響も懸念される。日経平均においては、6月以降15千円台を示し、9月で16千円まで上昇している。内需における上昇傾向は、景気の上昇を反映しているように思われる。  |  |
|             |                  | 機械器具及び其の他金属製品の製造   | 景気は緩やかに回復基調が続いているが、4月の消費税値上げが影響し始めている。単月で見れば、業績が前年同期比から悪くなっているが、見通しは、売上と業績は良くなっている。<br>輸送機部門では、部品の海外現調比率の高まりと国内での車の先行き生産縮小が見られる。売上と採算性、業績は下がり気味ではあるが、見通しは良くなっている。電気機械では、溶接ロボットや溶接機部品は前月から横這いである。家電関連は前月から見たら薄日が差し始めている。電子・デバイス関連は、受注増で生産が拡大している。チェーン部門では、四輪、二輪用と産業機械用チェーンも順調に継続している。産業機械向けコンベヤが減少している。繊維機械では、新機種での生産数量の確保ができており、オートワインダーの生産も確保されている。   |  |
|             |                  | 機械金属、機械器具の製造   | 前月同様、売上・収益共やや低調に推移している。工作機械関連、建設機械関連は好調であるが、中国市場の低迷から、繊維機械関連は低調に推移している。  |  |
|             | その他の製造業          | 漆器製造業 (能登方面)   | 売上・収益共に下げ止まりがない状況である。<br>工芸品に関する個人消費は、増税後は手控えが続いているようだ。9月も昨年対比で観光バスの入込が10%減少となった。  |  |
|             |                  | 漆器製造業 (加賀方面)   | 引き続き大きな動きは見られず、産地出荷額は昨年並みと思われる。漆をはじめとした近年の原材料費高騰に対応するための価格転嫁については、単年度毎に価格改定を行っている事業所もあるが、このところ短期間で再値上げが連続しているため、当面は価格改定を行わず、原材料費の価格安定を待つからの大幅値上げを予定する動きもみられる。<br>個人消費について、当組合会館の入館者数は、依然として前年比5~8%のマイナスが続いており、回復の兆しが見られない。市内周遊バスからの来客数も同様の傾向にある。   |  |
|             | その他の製造業          | プラスチック製品製造業  | 9月の状況は、売上については全体として良くなかったのではないと思われる。収益的には依然厳しい状況であり、現状、原料は少し安定しているものの、高止まりの傾向に変わりはなく、材質により今後更に値上がりする傾向にあるため、収益を圧迫していると言える。<br>個人消費について、9月に入り、天候が回復してきたため、動きは悪くないと思うが、8月に毎週末の雨で苦戦しており、その影響かまたは買い控えなのか、9月後半までは低調だった。9月末~10月に向けての受注増はあるものの、現在の販売状況が好調なのか、年末に向けて準備を兼ねた受注増なのかよく分からない状態である。<br>当組合員の動向としては、依然好調と言えなく、仕事量においても価格面も厳しく、更に円安傾向が加速している。当組合にとっては、原材料・運賃・資材の値上がりに繋がり、大きなマイナス要素となっている。どこまで円安が続くのか分からず、不安を抱えているようである。価格面においては、消費税増税後の買い控え傾向が続いており、同一商品では末端価格が上げられない状況で、中小零細企業にとっては新製品の開発や合理化設備の資金も乏しく、厳しい面もあるようである。  |  |
|             | 非<br>製<br>造<br>業 | 卸売業  | 事務機・事務用品卸売業  | 9月の売上は、漸く前年並みに回復が見られ、明るさを取り戻した感がある。ただ、為替の関係が分からないが、商品の値上げがじわじわと迫ってきている。収益に関しては、まだ厳しいものがある。   |
|             |                  |  | 水産物卸売業   | 9月分買受高は対前年同月比4.7%増となり、本年5月以降プラスに転じて、上半期(4~9月)分で2.1%増と上昇傾向が続いている。組合員の今後益々の頑張りに期待する一方、明年10月に予定する消費税率10%に向け、生鮮食品等の軽減税率導入を関連団体と一体となって、その実現を国・政府に求めていきたい。                             |
|             |                  |  | 一般機械器具卸売業  | 新幹線開業を控え、駅周辺の開発事業を中心に、非住宅需要が堅調に推移しているが、住宅市場は回復基調とはいえ、消費増税前駆け込みの反動減により、依然低調である。売上・収益は共に前年並みに推移している。個人消費について、省エネ関連商材として、LED照明が依然好調に推移しているが、青色LED開発によるお三方のノーベル賞受賞により、更に普及加速を期待している。 |
| 各種商品卸売業     |                  |  | 繊維品の和装及び洋装共に、季節に関係なく、個人消費が低調であり、消費税引き上げ後更に厳しく、悪化傾向にある。   |  |
| 小売業         | 燃料小売業            | 販売量は減少傾向にあり、単価も低下してきたことから、売上高は前年より減少した。元々適正マージンが確保できていないため、収益は厳しいものがある。<br>個人消費について、消費税増税後、節約志向から需要が低迷している。例年最大の需要期である8月が過ぎると需要は低迷するが、今年の8月は対前年20%減という大幅な減少であったことから、9月に入り回復すると思われるが、実感は感じられない。<br>業界の動向としては、原油価格の低下により仕入価格も低下し、販売価格は小幅な値下げとなった。消費税増税後、消費者の節約志向もあり、販売量は前年を下回ってきたが、9月も同様であった。原油価格が弱含みであり、円安と相殺されているが、今後原油価格の動向により、円安の影響による仕入価格の高騰が懸念される。 |  |  |
|             | 機械器具小売業          | 平成26年9月度、夏場商戦が終了すると同時に需要が縮小した。金額の伸びは全体で前年比75%であった。カラーテレビは前年比75%、ルームエアコン90%、冷蔵庫75%、洗濯機95%と主力商品が全てダウンし、金額の伸びも大幅ダウンした。<br>個人消費について、今夏は天候も不順で夏場商戦の盛り上がりも今一歩不足し、例年並みの需要獲得とはならなかった。消費増税前の特需前倒し後の低迷が今も続いている。10月以降は、各社合同展示即売会等での需要掘り起こし祭事が行われるが、これによる回復に期待したい。   |  |  |

|                  | 集計上の分類業種 | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)   |
|------------------|----------|-----------------------|---|
| 非<br>製<br>造<br>業 | 小売業      | 男子服小売業<br>婦人・子供服小売業   | 当初、残暑予想であったが、昨年と比べ短く、早めに朝晩の気温が下がり、その結果対応が遅れたが、中旬以降秋・冬物が動き出した(前年比93.9%)。デフレ脱却が未だに払拭出来ない様相なので、適正在庫の有無に関わらず、売上が取れない。相変わらず客数減、客単価減等、消費者心理に積極性が乏しい状況下である。  |
|                  |          | 鮮魚小売業                 | 売上高は昨年より若干多かった程度で、収益状況の改善まではいかない。<br>個人消費について、底引き網漁が始まり、市場に魚が出回ったが、秋のさんまも安値が続かず、気温が高く、鮮魚が売れにくい季節的要因も出た。<br>9月から底引き網漁が始まり、昨年より取引額は若干多くなっている。消費増税をも上回っている。漁期のシーズンに入ったが、まだ暑さもあり、閑散とした日も多々ある状況にあり、本格的な景気回復にはなっていない。   |
|                  |          | 他に分類されないその他の小売業       | 売上は前年を上回った。兼六園の有料入園者数は前年比109%であった。4月～9月(半期)までは105%であった。今年度前期は観光客の入込は伸びている。  |
|                  |          | 百貨店・総合スーパー            | 9月の全体の昨年対比が89.5%、ファッション:97.6%、服飾・貴金属77.3%、生活雑貨:93.6%、食品105.2%、飲食82.5%、サービス77.9%、客数91.3%であった。横這い状態から、下降している感じがあり、引き続き景気が良くなっている実感がない。業種によって差はあるが、特に服飾・貴金属については、昨年対比77.3%と苦しい状況であった。<br>独自の販売促進にて、集客をどうにか保っているが、イベントなしでは苦しい状況と考えられる。  |
|                  |          | 米穀類小売業                | 毎年収穫期は農家より頂けるとのことで売上は減少した。販売価格も下落して、利益率も低下している。観光客も天候の不順で客足は今一つであり、業務用も暇なようである。<br>個人消費は上記の通り、農家の持ち出しもあり販売は伸び悩みの傾向である。<br>石川県の作況指数はやや良であるが、加賀地方の作柄は日照不足であまり良くないようである。売上は例年のごとく農家の直売で減少している。価格は近年にない安値であり、販売価格も下落の傾向である。   |
|                  | 商店街      | 近江町商店街                | 鮮魚を見ると、対前年比の売上高は10%アップしている。青果物の仕入は高値だが、販売価格に転嫁することが難しく、収益状況が落ち込んでいる。<br>個人消費について、比較的天候に恵まれたのと、2回の連休に観光客の増加が見られた。  |
|                  |          | 輪島市商店街                | 売上は昨年対比96.2%であった。輪島の景況は引き続き厳しく、消費マインドが大変冷え込んでいて、「個人消費」は最悪の状況である。<br>ドラック大手の2社のポイント合戦(3倍・5倍・10倍セール)がエキサイトし、そのうち1社が店舗と駐車場を広げ、扱い商品も「寿司や惣菜・弁当」を新たに加え、11月上旬改装オープンに向けて整備中である。人口減少と高齢化の当地にとって、路面店は益々厳しくなると思われる。  |
|                  |          | 片町商店街                 | セールも終わり、秋の立ち上がりは気温も低めで推移しているの、ある程度好調と判断するが、それでも消費税アップによる景気の悪化も感じている。もう一つ力強さが足りないを認識している。<br>個人消費について、残暑も少なく、気温も低めに推移したために、アパレル関係の店は順調に推移した。外国人観光客も増えているので、うまく入店に繋がっているところは売上にも貢献していると思う。  |
|                  |          | 堅町商店街                 | いろんなものが高騰し、ファッションに使うお金が減っている。個人の消費意欲がかなり低下していると思われる。  |
|                  | サービス業    | 旅館、ホテル(金沢方面)          | 連休の観光客、コンベンション等により、昨年と同様に週末はほぼ満室であった。ただ、仕入値が食品を中心に値上がりしており、また団体客、ビジネスの中・長期滞在客の消費税UP分含め、全ての値上げを料金に反映出来ておらず、ほとんどの組合員では収益増とまではいっていない模様である。   |
|                  |          | 旅館、ホテル(加賀方面)          | ガソリン代の高止まり、シーズンリティの欠如等が感じられ、動向の活発化が窺えない。旅館旅館があるためにマイナスとなっているが、それ以外だと100%になる。個別にみると、7軒/11軒が対前年人数ベースでプラスとなっており、悪いという感じではない。<br>個人消費について、若干消費者マインドは下向きで、売上減少傾向が見られる。   |
|                  |          | 旅館、ホテル(加賀方面)          | 温泉地全体の宿泊客数は、対前年678名、102.4%と増加した。但し、新規開業旅館を除く既存旅館の前年対比では-94名、99.7%と僅かながら減少した。大規模旅館1軒が改装中のため収容力が半減しており、宿泊減の大きな要因にもなっている。<br>各旅館の売上はまだ判明していないが、温泉地全体の集客数は前年とほぼ同数であったことから、売上も大きく好転しているとは思えない。<br>個人消費について、夏の観光需要も一段落して、9月は落ち着いた感がある。全般的に好天が続く、イベントの集客増にも繋がった。但し、依然として日帰り客のみが増加しているように感じられる。   |
|                  |          | 旅館、ホテル(能登方面)          | のと鉄道・JR観光列車・七尾線のシャトル特急の愛称名が決まり、新幹線開業が近づき、情報発信の機会が増え、来年度の問い合わせが増えているが、本年度は対前年比91.0%と厳しい状況である。<br>個人消費については、ボーナス増額支給等プラス要因があったが、消費額はほぼ昨年と同額で宿泊には影響はなかった。  |
|                  |          | 自動車整備業                | 平成26年9月期の継続検査実績車両数は、登録車で対前年比107.3%、軽自動車でも対前年比106.4%と登録・軽自動車とも3か月ぶりにプラスに転じた。プラス要因としては、特に平成23年3月の大震災で8月までは需要と供給のバランスが取れなかったが、平成23年9月以降、メーカーからの供給が回復したことにより、乗用車を中心に(対前年比113.2%)増加したものが車検時期を迎えたことがその要因と考えられる。従って、この影響により、後期(10月から来年3月までの間)は継続検査の伸びを期待するものである。<br>一方、9月期の新車販売台数は、登録車で対前年比103.0%、軽自動車は対前年比88.6%となり、軽自動車については、平成26年4月以降9月までの半年間はマイナスで推移し、6か月間合計での前年対比は87.4%であった。登録車の6か月間の動向については前年対比で99.0%で推移している。消費税増税による駆け込み需要の影響もあって、特に軽自動車に影響を受けた。今後各メーカーが導入する新車発表会により、少しでも巻き返しが出るように期待するとともに、特に軽自動車については、平成27年4月1日以降の届出については、自動車税が7,200円から10,800円に変更されるが、その影響は販売動向の推移にどのような反応を示すか、軽自動車の販売状況を注視していきたい。 |
|                  | 建設業      | 板金・金物工事業              | 操業度、受注とも例年と変わっていない。<br>個人消費についても同様である。  |
|                  |          | 管工事業                  | 9月期における売上高と収益状況は前年同期より40%弱減収であった。新築住宅の着工件数減が原因の一つかもしれないが、消費税増税の影響が出てきている。<br>給水装置工事の申し込み件数は、前年同期より15%の減少であり、またガス管工事受付件数も10%の落ち込みである。駆け込み需要の反動が来ているみたいである。今後の住宅新築件数の伸びと受注環境が良くなることを願う。   |
|                  |          | 一般土木建築工事業             | 売上高は、順調に公共工事が発注されていることもあり堅調である。しかし、資材単価や労務費の上昇により、収益状況は決して良いとは言えない。<br>建設業は、近年、労働力不足に悩まされている。特に若年層が建設業に従事する割合は少なく、高齢化が顕著である。受注機会がありながら、人手不足のため、応れできない企業が出てきている。   |
|                  | 運輸業      | 一般貨物自動車運送業①           | 決算や半期決算などにより、9月は荷動きが普段よりも活発となり、若干売上は高くなった。燃料価格が7月よりも減少傾向だが、まだまだ収益はキツイ状態である。<br>燃料費が前年同月と比較すると、+6円/ℓ(税抜き)となっており、かなり収益を圧迫させている。   |
|                  |          | 一般貨物自動車運送業②           | 9月の売上高は、前月比で約4%増加したが、前年同月比は約1%のマイナスであった。8月の実績が低かったため、前月比はプラスとなっているが、このところ、期待に反し、全般的に今一の売上推移となっている。収益面では、軽油が必要減で少し値下がりしているが、微々たるものである。一方、人件費及び消費財等が上昇しており、改善されていない状況である。   |